

EU Indicators

欧州経済指標コメント：11月ドイツ I f o 企業景況感

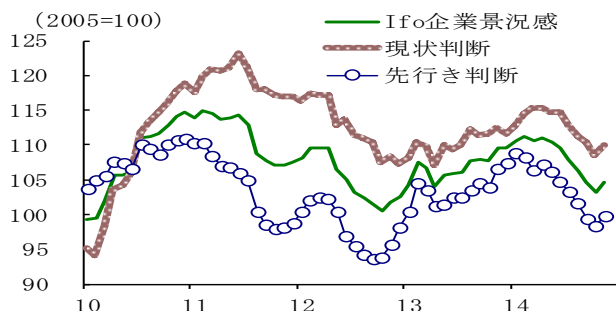
発表日：2014年11月25日(火)

～安堵と慎重～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

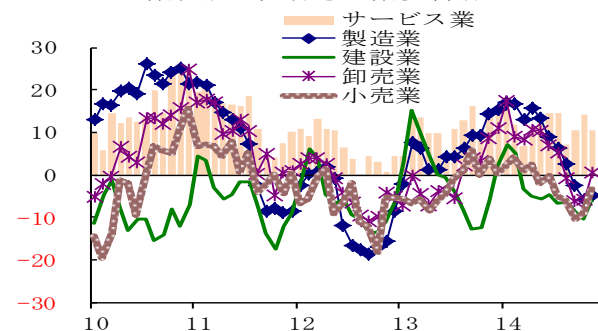
- 24日に発表された11月のドイツの I f o 企業景況感（2005年=100の指数）は前月差+1.5ポイントと7ヶ月振りに改善し、前月の落ち込みを取り戻した。内訳は、現状判断（同+1.6ポイント）、先行き判断（同+1.4ポイント）が揃って7ヶ月振りに上昇。業種別の先行き判断（ゼロが業況判断の分岐点）は全ての業種でモメンタムが改善。卸売業（10月：▲5.8→11月：+0.7）が4ヶ月振りにプラス圏に復帰し、製造業（▲5.8→▲4.8）、小売業（▲9.0→▲3.2）、建設業（▲10.4→▲6.1）のマイナス幅が縮小した。別途発表されたサービス業の業況判断は、依然高水準を維持しているものの、現状判断（+33.9→+28.4）、先行き判断（+14.1→+10.6）が揃って前月からプラス幅が縮小した。
- 9月の生産・受注・輸出統計が揃って反発、7-9月期GDPで景気後退回避が確認され、ドイツ景気に対する過度な悲観論の後退が企業心理の好転に作用している模様。ユーロ安基調が続いていることが主に製造業の業況改善を、原油価格の大幅下落が主に小売業と卸売業の業況改善を後押ししている。ただ、ここに来てウクライナ情勢が再緊迫化。また、20日発表のPMI指数で新規受注判断が業況判断の分岐点を割り込むなど、先行きの不透明感は依然として根強い。景気の底割れ回避と先行きの業況改善を示唆する内容だが、企業の慎重姿勢が一段と薄れるためには世界景気の回復加速やユーロ圏のデフレリスク後退などを確認する必要がある。

■ ドイツ：I f o 企業景況感



出所：Ifo

■ ドイツ：業種別の先行きの業況判断



出所：Ifo

■ ドイツ I f o 企業景況感

	2013				2014											
	4Q	1Q	2Q	3Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月			
企業景況感(総合)	108.9	110.8	110.3	106.3	110.6	111.1	110.3	109.6	107.9	106.3	104.7	103.2	104.7			
現状指数	111.8	114.0	114.9	111.4	115.2	115.3	114.7	114.7	112.8	111.1	110.4	108.4	110.0			
先行き指数	106.0	107.8	106.0	101.4	106.3	107.2	106.1	104.7	103.3	101.6	99.3	98.3	99.7			
業況判断	10.3	14.1	13.2	5.3	13.7	14.7	13.1	11.7	8.5	5.2	2.2	-0.6	2.3			
製造業	14.3	18.8	18.1	9.2	19.0	20.1	18.8	15.5	12.2	9.3	6.2	1.5	3.9			
建設業	-2.4	-0.2	-3.7	-5.9	-3.5	-3.4	-4.0	-3.7	-5.5	-5.3	-7.0	-7.2	-5.9			
卸売業	9.8	12.9	12.6	3.1	10.8	14.2	11.2	12.3	9.1	2.6	-2.5	-0.2	6.1			
小売業	4.7	7.0	6.7	0.3	8.4	7.6	4.7	7.9	3.7	-0.8	-2.1	-4.6	-1.6			

出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。